



山梨大学 | 新技術情報クラブ |



～ コーディネータコラム ～ 2020/12/14

【令02-17号】

本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。

メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

コーディネータコラム

社会連携・知財管理センター
地域連携コーディネータ 内藤 富美晴

こんにちは、いつも大変お世話になっております。

早いもので12月も半ばとなり、今年もあと僅かとなりました。

大学のたくさんのイチョウはすっかり葉を落とし、構内はいつの間にか冬景色となっています。

今年(2020年)は、オリンピックイヤーとして、大いに盛り上がる予定でしたが、2月から世界中に蔓延した新型コロナウイルスの影響で、オリンピックは1年延期、用意されていた各種イベントは軒並み中止や見直しが行われ、その機運は一変いたしました。

また、コロナ渦において人々のあらゆる社会活動や経済活動が制限され、誰もが今まで経験したことのない異例づくしの一年となりました。

こうしたなか、新型コロナウイルスのワクチンが開発され、イギリスで投与が開始されたという明るいニュースが入ってきましたが、コロナ終息後はコロナ危機以前の生活や仕事のスタイルに戻るようになるのでしょうか。コロナ終息後の社会は、すべてにおいて「ニューノーマル」(新状態)への変換が進むのではないとも言われています。

多摩大学大学院の田坂広志名誉教授によれば、こうした経験をもとにコロナ危機後に目指す社会は、経済活動を重視する「経済モード」と健康と安全を重視する「安全モード」を持ち、平常時は「経済モード」で運用しながら、パンデミックのような緊急時には速やかに混乱なく「安全モード」に切り替えていける社会システムを構築することが必要だと言っております。こうした社会を「デュアルモード社会」と呼ぶのだそうです。

新情報クラブの活動も、コロナの影響により技術交流の場であるアカデミックサロンなどの各種イベントの中止等により、研究者や会員相互の交流ができる貴重な機会が失われてしまったことは大変残念なことでありますが、今後は、いろいろな知恵を出し合って、デュアル

モードな運営に心がけていきたいと思ひます。

このような状況下、11月13日(金)から「やまなし産学官研究交流事業」として山梨県と山梨大学それぞれの技術シーズを県内企業等に紹介する研究発表会が Web サイトを活用して、来年3月末まで開催されています。

例年は甲府市内の会場において講演や展示等による県下最大規模の研究発表会を開催していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、本年度は研究内容をビデオで収録し、Web サイトを活用してユーチューブで配信する形式での開催となっています。

当該サイトでは、産業技術センターワイン技術部部長の恩田匠氏による「日本のスパークリングワイン製造に関する研究」と題して特別講演が視聴できます。同公演では、「瓶内二次発酵」の解説と技術賞受賞講演の内容を紹介しております。

また、研究者発表は、山梨県と山梨大学合わせて36名(12月7日現在)の研究者や先生方の各種研究内容、技術を公開しております。

皆さまの中で、まだ、視ていないという方は、是非覗いてみてください。新しい発見があると思ひます。

私も、地域連携コーディネータとして7月に着任してから早5か月が経過いたしました。

この間、たくさんの先生や企業の皆さまと面談し、研究シーズや企業のニーズに触れてきましたが、この厳しいコロナ禍にあっても、社会に役立つ技術や仕組みを追い求める研究者や企業の方々には本当に頭が下がります。敬意を表したいと思ひます。

2021年の干支は「丑」です。丑の特徴は「粘り強さと誠実」だそうです。また、丑は紐であって、結んだり絡んだりという意味もあるようです。種子の中に芽が生まれているもののまだ伸びることができない状態を表しているとも言われるようですが、異種のもの同士が融合して、何か新しいものがたくさん生まれ、それを伸ばすことができる年になればいいなと思ひます。

来年が皆様にとって素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたします。

インフォメーション 目次

- 01： プレスリリース (1 件)
- 02： イベント (5 件)
- 03： セミナー情報 (4 件)
- 04： 助成事業および公募事業 (2 件)
- 05： 事務局からのお知らせ

■

- 01 プレスリリース (1 件)
-

◆山梨大学医学部附属病院 新型コロナウイルス対策として入院患者モニタリングシステムを新規導入

本院では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、入院患者モニタリングシステムの活用を令和2年12月1日から導入しました。このシステムは本院に入院している比較的軽症の新型コロナウイルス感染患者さんの内、タブレット端末やバイタル測定器をご自身で活用できる方に対して導入するもので、患者さんご自身で測定した体温、酸素飽和度、血圧、血糖値などの情報を離れた場所から医療スタッフがモニタリングできます。

本院では、7月から同システムの試験運用を開始し、検証を行った結果、正常に稼働し、以下の効果が確認されたことから本格導入を決定しました。

- ①感染患者さんとの接触頻度の減少による感染リスクの低減
- ②防護服の着脱や移動時間の減少による医療者の負担軽減
- ③使い捨て防護服等の使用量の減少による経費の削減

□ ■

■02 イベント (5件)

◆【環境省】エコライフ・フェア2020 Online
”「気づき」から「行動」へ～地球の未来のために～”

エコライフ・フェアは幅広い年齢層の方に環境問題について楽しみながら学び、環境問題への理解を深めることを通して、暮らしの中の行動に移していただくことを目指し、多くの充実した内容を今年はオンラインで開催します。

小泉新次郎環境大臣をはじめとし、メディア、SNS等で活躍されている著名人によるトークイベントやワークショップ、100団体にも及びバーチャルブースを全国どこからでもご覧いただけます。

日時：令和2年12月19日(土)～令和3年1月17日(日)

詳しくは下記URLよりご覧ください。

<http://ecolifefair.env.go.jp/>

◆「藤原嘉文 作曲個展～室内楽作品演奏会～」開催のお知らせ

本学教育学部芸術身体教育講座 藤原嘉文教授主催の「藤原嘉文 作曲個展～室内楽作品演奏会～」が開催されます。入場無料、予約不要、どなたでもご来場いただけますので、皆様お誘い合わせの上、お気軽にお越し下さい。

日時：令和2年12月23日(水) 19:00開演

会場：YCC 県民文化ホール・小ホール

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/28734>

◆【山梨県】やまなし農業・農村シンポジウム

山梨県では、中山間地域の農地等が有する多面的機能の良好な発揮や地域住民活動を通じた農村の活性化を目的に、毎年シンポジウムを開催しています。

本年は、『農業で働く女性が輝く社会を目指して』をテーマに、第1部では直木賞等数々の受賞歴を持ち、日本文藝家協会理事長やワイン県副知事等を歴任する女性作家 林真理子氏にご講演いただきます。

第2部では、高齢化や担い手不足により生産基盤の弱体化が深刻な問題となっていることから、若年・子育て世代の女性の就農希望を掘り起こすため、県内で活躍する女性農業者の方々にパネルディスカッションしていただきます。

どなたでも参加可能ですので、ぜひご参加ください。

日時：令和3年1月27日(水) 13:00~15:30

場所：山梨県立文学館 講堂

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.pref.yamanashi.jp/kouchi/sinpojiumu/nougyounousonsinpojiumu.html>

◆【近畿経済産業局】『第16回医療機器企業への売込商談会～部素材・技術編～』～今回も新型コロナウイルス感染症関連案件を募集！～

令和3年1月に、ものづくり企業による医療機器産業への新規参入を支援し、新型コロナウイルス感染症対策に資する医療機器・医療物資の開発・生産体制を強化するため、「医療機器企業への売込商談会(逆見本市)～部素材・技術編～」が対面、オンラインで開催されます。経験豊富なアドバイザーによる事前ヒアリングや商談への同席、事後のフォロー等の支援を通じて、制度の高い企業マッチングにつながる商談会です。

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

https://www.kansai.meti.go.jp/2-4bio/Market_In/NWimage/gyakumihonichi16.html

◆Digital×北斎【破章】「北斎 VS 廣重 美と技術の継承と革新」

20億画素の超高精細デジタル記録と3次元質感画像処理技術により和紙の繊維の一本一本から微細な刷りの凹凸まで現物を再現させた葛飾

北斎『富嶽三十六景』全 47 作品、歌川廣重『東海道五拾三次』全 53 作品を所蔵元認定の展示用マスターレプリカで一堂に展示します。
文化芸術と最新テクノロジーを組み合わせることで、新たに発見された江戸天才絵師の超絶技巧や最新のデジタルアートの数々により、これまでになかった絵画の中に入り込んだような臨場感溢れる体験をお楽しみいただけます。

開催日、開催場所等詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.ntt-east.co.jp/pr/hokusai-hasyo/>



■03 セミナー情報 (4 件)

◆【国土交通省】下水道資源利用セミナー
～地域の下水道資源を活用した取組事例を学びませんか～

国土交通省では、下水道に集まる水、バイオマス、リン、熱などの様々な資源をエネルギーや肥料として有効利用し、下水道を拠点とした資源循環システムの構築を目指しています。
各地の下水同資源を活用した地域の取組事例を学び、地域での下水資源の活用可能性を考えることを目的とした Web セミナーを開催します。

日時：令和 2 年 12 月 14 日(月)～令和 3 年 1 月 15 日(金)

形式：You Tube による動画配信

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000442.html

◆【ジェトロ/山梨県】《オンライン商談会》
水素・燃料電池、蓄電池エネルギー関連技術商談会

水素・燃料電池、蓄電池関連産業に取り組む企業の販路開拓を支援するため、関連製品の調達に関心のある海外バイヤーとのオンライン商談会を開催します。水素・燃料電池、蓄電池関連分野での海外展開に意欲のある事業者様は、是非この機会をご活用ください。

日時：令和 3 年 1 月 25 日(月)～2 月 26 日(金)

場所：オンライン商談会

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.jetro.go.jp/events/osa/Oe9487cbcdcc464f.html>

◆【やまなし産業支援機構】やまなし知的財産経営戦略塾(セミナー)

中小企業の経営者、研究者・技術者、知財担当者等を主な対象に、知的財産権制度に関する知識や情報に関する知識や情報をビジネスに活かすための様々なヒントを紹介し、中小企業にとってなぜ知財が必要なのか解説します。

日時：第1回 令和3年1月18日(月) 13:30～16:30
第2回 令和3年2月26日(月) 13:30～16:30

会場：アイメッセ山梨 4階 大会議室

詳しくは下記 URL よりご覧ください。
<https://www.yiso.or.jp/topics/646.html>

◆【甲府商工会議所】2021 年新春経済講演会
『2021 年の日本経済の見通し～コロナ時代の世の中の変容を考える～』

2021 年のスタートにあたり、本年の経済展望をテーマに新春経済講演会を開催します。

日時：令和3年1月13日(水) 13:30～15:00
場所：甲府記念日ホテル

詳しくは下記 URL よりご覧ください。
<https://kofuucci.or.jp/seminar/20210113/>

□ ■

■04 助成事業および公募事業 (2件)

◆【環境省/(一社)日本有機資源協会】令和2年度「脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業(補助事業)」の5次公募

化石由来プラスチックを代替する省 CO2 型バイオプラスチック等(再生可能資源)への転換及び社会実装化またはプラスチック等のリサイクルプロセス構築及び省 CO2 化を行う事業に要する経費に対して、当該経費の一部を補助する補助事業者を公募します。

公募期間：令和2年12月1日(火)～12月25日(金) 17:00

詳しくは下記 URL よりご覧ください。
<https://www.jora.jp/news/4870/>

◆【(一財)環境イノベーション情報機構】《予告》

サプライチェーン改革・生産拠点の国内投資も踏まえた脱炭素社会への転換支援事業(二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金)の公募

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、我が国のサプライチェーンの脆弱性が顕在化したことから、企業等が国内の生産拠点等を整備しようとする場合に、RE100 の推進や防災に資する自家消費型太陽光発電設備等を導入する事業に要する経費の一部を補助することにより、レジリエンスの向上と脱炭素社会への転換に資することを目的としています。

公募期間：令和2年12月中旬ごろに公募を開始する予定です。

詳しくは下記 URL よりご覧ください。

<https://www.eic.or.jp/eic/topics/2020/supply/001.html>



■05 事務局からお知らせ

～会員会社様へ課題伺いの訪問をいたします～

技術課題や大学の知恵を借りたいなど、ございませんでしょうか。会員企業様の持つておられる技術課題を伺いに訪問いたします。訪問ご希望の会員企業様がございましたら、事務局までお気軽にご連絡ください。



- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
- 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。

